

こんにちは。全事研福井大会研究部です。いよいよ全事研福井大会が目前に迫ってきました。今回は、私たち研究部が担当する第6分科会の提案発表の内容についてお伝えさせていただきます。

全事研福井大会第6分科会での提案概要

テーマ 「意識」×「仕組み」で「協働する組織文化」を創り出そう！
～ポジティブに しなやかに 進化し続ける学校組織へ～

助言者 茨城大学大学院教授 加藤 崇英 先生

① 提案

- ・意識、実践、体制整備の三要素について
- ・意識の向上や仕組み作りなどで、学校の課題解決に事務の側面から貢献しよう
- ・2つの「壁」（「意識の壁」「仕組みの壁」）をどう打破するか
- ・組織メンバーの思いを共有、共感し、多様性を受け入れ納得解に導こう
⇒ そのループがよりよい組織文化の醸成につながっていく

②取組紹介

「意識」×「仕組み」で学校組織や教育活動を活性化させる取組
おおい町本郷小学校 早川主任、仲瀬主任（前任）の実践
→「水の授業」の取組・「子どもボランティアクラブ」の取組

③グループワーク

グループごとにテーマを設定
テーマ①「読書活動を活性化させるには」
テーマ②「清掃活動を活性化させるには」

これらの課題を糸口に、事務職員が関われること、貢献できることを探ります。

→使えるツールは？ 誰と協働する？ どんな強みを活かす？

超えるべき「壁」は？ それをどう打破する？ 組織メンバーを納得解に導くには？

④討議内容の共有

⑤助言者より

【本分科会での私たちのねらい】

新しい取組を始める際の負担感（「意識の壁」・「仕組みの壁」）の解消、取組を推進する上での具体的な体制整備や仕組み作りなどを通して、事務職員がリーダーシップを発揮してよりよい組織作りを推進していく方法について、分科会全体を通して伝えていきたいと考えます。また、グループワークでは、学校で発生する課題の解決に、事務職員の視点からどう関わっていけるか、どんなツールを用いて、誰とつながり、学校組織の改善に向けてどのように働きかけていけるかについて、参加者の皆様と考えていきたいと思っております。今回話し合っていたテーマは、つい「事務職員だから」と見過ごしたり遠慮したりしてしまいがちな内容ですが、広い視野を持って話し合い、課題解決の方策をあらゆる視点から探ることで、事務職員だからこそできる新たな可能性を発掘していきたいと考えます。また、グループワークを通して、多様な考えをポジティブにとらえ、柔軟な発想や対応でチームのメンバーを納得解に導くことも体感してほしいと思っています。

学校組織において、メンバー同士の対話や協働の好循環が良好な組織文化を創り出し、組織の活性化につながるものと考えます。事務職員がそのループの中で重要な役割を果たし進化を遂げていけるよう、全国に発信していきたいと思っております。